

ロングレンジ CCD バーコードリーダー

FBC-6870 シリーズ

日本語設訳 設定マニュアル

第 1 版

Rev1.6

対象機種

型式	インターフェース
FBC-6870-USB	USB インターフェース
FBC-6870-KB	キーボードインターフェース

【発行/お問い合わせ先】
株式会社アチーブ
〒230-0051
神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央
4-30-14-2F
TEL:045-508-1877

URL:<http://www.achi-eve.co.jp/>

Rev1.6 Mar 2007

はじめに 本書について

本書は「ロングレンジCCDバーコードリーダ FBC-6870 シリーズ」に付属する英文取扱説明書 (User's Manual) から、主に使用する機能変更の設定用バーコードメニューを抜粋し、日本語に翻訳・編集したものです。

あらかじめご承知いただきたい事項

本書の製本版は配布しておりません。設定用バーコードの読み取る場合は、本書をプリンターで印刷してスキャナで読み取ってご使用下さい。

改訂履歴

第 1 版	日本語訳 設定マニュアル 作成
第 1 版 Rev.1.1-1.3	誤字脱字訂正
第 1 版 Rev.1.4	1.アスキーコード表 追記 FBC-6870-USB 未対応の特殊文字を記載 2.第 2 章 設定用バーコード 「CapsLock の設定」を削除 「アルファベット 大文字/小文字 出力の設定」を記載 ※「CapsLock の設定」の代替設定
第 1 版 Rev.1.5	バーコードメニューの訂正と追記 [訂正箇所] 2 度読み防止,データ長出力,シンボル ID 出力, バーコード規格ごとの読取条件設定 (最短の読取桁数,最長の読取桁数の 値決定“FIN”を削除)
第 1 版 Rev.1.6	お問い合わせ先を改訂。本社移転のため。

動作環境

型式:FBC-6870-USB

コンピュータ	IBM PC/AT 互換機(DOS/V マシン)
OS	WindowsXP/2000/Me/98SE
接続するポート・コネクタ	USB(USB ver1.1 または USB2.0)、USB-A コネクタ
制限事項	USB インターフェースは全ての環境での動作を保証するものではありません。 上記 OS 以外のシステムでは動作確認しておりません。 WindowsNT/95 は USB をサポートしていませんので動作しません。

型式:FBC-6870-KB

コンピュータ	IBM PC/AT 互換機(DOS/V マシン)
OS	WindowsXP/2000/Me/98SE/NT/95/MS-DOS
接続するポート・コネクタ	PS/2 キーボードポート 、Mini-Din6Pin コネクタ
制限事項	キーボードインターフェースは全ての環境での動作を保証するものではありません。 上記 OS 以外のシステムでは動作確認しておりません。 コンピュータ本体の PS/2 キーボードポート(オンボード)に直接接続してください。 PS/2 マウスポートに接続しても動作しません。

第 1 章 スキャナのセットアップ

設置方法

概要

スキャナを操作するまでの流れは下記[表:セットアップの手順]に示す通りです。
詳しい内容についてはそれぞれの項目をご覧ください。

[表:セットアップの手順]

手順	内容
1	スキャナ(FBC-6870 シリーズ)にインターフェースケーブル(付属品)を接続する。
2	コンピュータにスキャナ(FBC-6870 シリーズ)のインターフェースケーブルを接続する。 (1).FBC-6870-USB の接続 (2).FBC-6870-KB の接続
3	スキャナの初期設定を行う。 [設定用バーコード]をスキャナで読み取ります。
4	動作を確認する。 操作方法の確認とスキャナが正しく動作しているかを確認します。
5	各種設定を行う。 バーコードデータを出力するアプリケーションソフトに合わせて、動作の設定やバーコードの読み取り条件を設定します。 [例] レコード・サフィックス(終端キー)の「ENTER(初期値)◆」を「TAB」に変更する
6	操作を開始する。 1～5 の手順が済みましたら、操作の準備は完了です。スキャナの運用を開始します。

手順 1. スキャナ(FBC-6870 シリーズ)にインターフェースケーブルを接続する

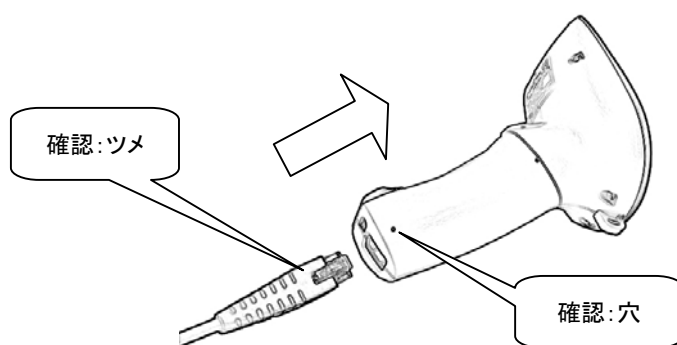
接続の方法

最初に、スキャナにインターフェースケーブル(付属品)を接続します。

スキャナ手持ち部の下側に、インターフェースケーブル接続用のコネクタがあります。コネクタに、インターフェースケーブルのモジュラーコネクタ(RJ45 コネクタ)を接続します。コネクタの方向に注意して、正しい方向で接続します。

[コネクタの方向]

コネクタの「ツメ(返し)」側をスキャナ本体の「小さな穴」がある方に向けて接続します。「カチッ」と音が鳴るまで差し込んでください。



手順 2. コンピュータにスキャナ(FBC-6870 シリーズ)のインターフェースケーブルを接続する

(1).FBC-6870-USB の接続

接続の概要

コンピュータの起動



FBC-6870-USB の接続



ドライバのインストール

WindowsXP/2000/Me: OS が自動インストールします

Windows98SE: マウスとキーボードを使用してインストールウィザードを操作します



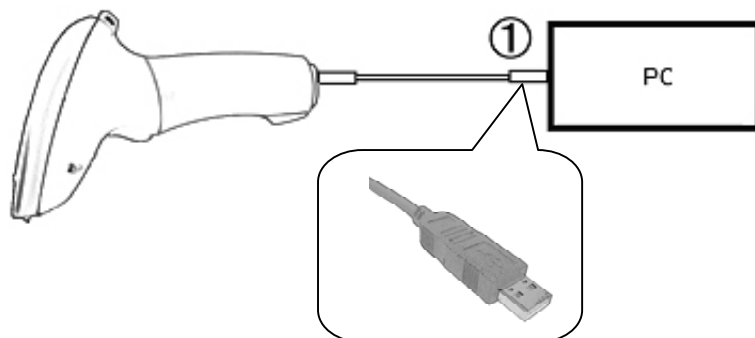
接続の完了

接続の方法 および ドライバのインストール

ドライバ	USB HID(ヒューマンインターフェース)クラスドライバ
ドライバの場所	USB HID クラスドライバはコンピュータ(Windows)のハードディスク内に格納されています。 製品にドライバの CD-ROM などは同梱されていません。 コンピュータの状態によっては、OS の CD-ROM が必要になります。

WindowsXP/2000/Me

- (1) バーコードリーダーの USB コネクタをコンピュータの USB ポートへ接続します(①)。コンピュータ本体の USB ポートに直接接続してください。



- (2) バーコードリーダーに電源が入ります。
起動時のブザー(メロディ)が鳴ります。
起動時のブザーは鳴らさないように設定を変更できます。
設定の変更はドライバのインストールが完了してから行ってください。
- (3) Windows が自動的に USB ドライバのインストールを開始します。
- (4) コンピュータの画面に、「新しいハードウェアがインストールされ、使用準備ができました」と表示されるまでお待ちください。表示されると、ドライバのインストールは完了です。

Windows98SE

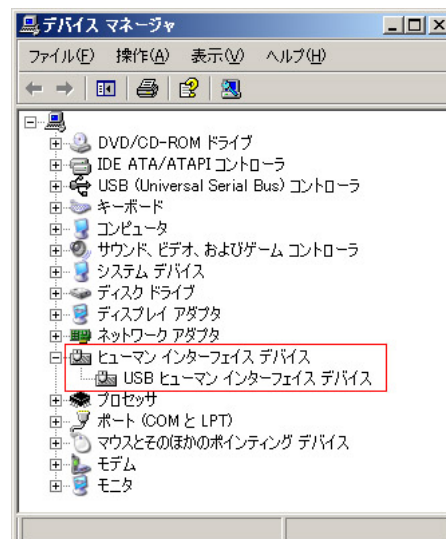
- (1) バーコードリーダーの USB コネクタをコンピュータの USB ポートへ接続します。
コンピュータ本体の USB コネクタに直接接続してください。
- (2) バーコードリーダーに電源が入ります。
起動時のブザー(メロディ)が鳴ります。
起動時のブザーは鳴らさないように設定を変更できます。
設定の変更はドライバのインストールが完了してから行ってください。
- (3) コンピュータの画面に「ドライバの接続ウィザード」ダイアログ画面が開きます。
「このデバイス用の新しいドライバを探しています。しばらくお待ち下さい」というメッセージが表示されたら「次へ」をクリックします。
- (4) 「検索方法を指定して下さい」と表示されたら
「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する(推奨)」をチェックし、「次へ」をクリックします。
- (5) ドライバの検索先指定ダイアログが表示されます。
「検索場所の指定」をチェックし、白い枠内に半角で「C:\WINDOWS\INF」と入力します。
入力したら「次へ」をクリックします。
- (6) 「USB ヒューマンインターフェイスデバイス」「このデバイスに最適なドライバをインストール準備ができました」と表示されたら「次へ」をクリックします。
- (7) 「新しいハードウェアデバイスに必要なソフトウェアがインストールされました」と表示されたら「完了」をクリックします。
ドライバのインストールが完了します。

備考 パソコンの環境によっては、OS (Windows98SE) の CD-ROM を求めるメッセージが表示されることがあります。あらかじめ OS の CD-ROM をご用意ください。

接続とドライバをインストールした後の確認

- (1) バーコードリーダー側面のトリガースイッチを押して、読み取り窓から赤い走査ライン(赤色 LED)が投光されることを確認してください。
- (2) Windows がバーコードリーダーを認識していることを確認します。
Windows のタスクバー-[スタート]-([設定])-[コントロールパネル]-[システム]-[ハードウェア]-[デバイスマネージャ]を開きます。
- (3) 「ヒューマンインターフェイスデバイス-USB ヒューマンインターフェイスデバイス」が表示されていることを確認します。

備考 CM-880-USB 以外に、USB キーボードや USB マウスを接続していると、複数の USB ヒューマンインターフェイスデバイスが表示されます。



(2). FBC-68700-KB の接続

接続の概要

コンピュータの電源を切る



FBC-6870-KB の接続



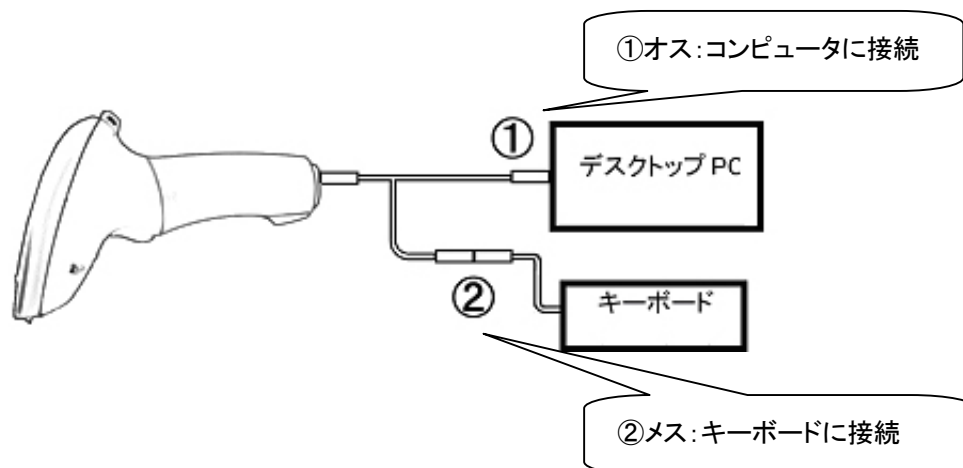
パソコンの電源を入れる(ドライバは不要)



接続の完了

接続の方法

- (1) コンピュータの電源を切ります。
- (2) コンピュータからキーボードのコネクタ(紫色のコネクタ)を抜き取ります。
- (3) キーボードインターフェースケーブル(付属品)のオスコネクタを、コンピュータ本体のキーボードコネクタに接続します(①)。
- (4) キーボードインターフェースケーブルのメスコネクタを、キーボードと接続します(②)。



- (5) パソコンの電源を入れます。
- (6) バーコードリーダーに電源が入ります。
起動時のブザーが鳴ります。
起動時のブザーは鳴らさないように設定を変更できます。

接続をした後の確認

- (1) バーコードリーダー側面のトリガースイッチを押して、読み取り窓から赤い走査ライン(赤色 LED)が投光されることを確認してください。
- (2) コンピュータのキーボードを操作し、キー入力を行えるかどうかを確認してください。

手順 3. スキャナの初期設定を行う

FBC-6870 シリーズ(スキャナ)をコンピュータに接続し、電源が入ったら最初に「接続環境」の設定を実行してください。スキャナで順番に「設定用バーコード」をスキャンすると、スキャナの機能が最も基本的な機能に変更され、すぐに操作を開始できます。


設定はスキャナの不揮発性メモリに保存され、電源を切った後も保存されています。
その他の各設定は、必要に応じて設定を変更してください。

[接続環境の設定]

◆ 初期値

順番	内容	設定用バーコード	
1	インターフェースの設定	I/F	製品に合わせてどちらかを選択します
	USB キーボードインターフェース “USB Keyboard Interface Quick Set Command” [対象製品] FBC-6870-USB(USB インターフェース)	USB	
	PS/2 キーボードインターフェース ◆ “PC/AT, Keyboard Wedge Quick Set Command” [対象製品] FBC-6870-KB(キーボードインターフェース)	KB	
2	設定開始“PROGRAM”		
3	キーボードレイアウト“Keyboard Layout”		
4	値設定	値	1,6 の順で読み取ります
	日本語キーボード(値:16)に設定します。 初期値:00 ◆ (USA キーボード)	1	
		6	
5	設定終了“END”		

[初期化]

内容	設定用バーコード
すべての設定の値を工場出荷時の状態に設定し、初期化します。 初期値はマニュアルの◆記号の値です。 設定がわからなくなってしまう場合やスキャナがうまく動作しなくなった場合は、初期化を実行し、再び「接続環境の設定」を実行してください。 [備考] インターフェースやキーボードレイアウトも初期値に設定されます。	

手順 4. 動作を確認する

スキャナをコンピュータに接続した後は、下記の手順でスキャナの動作を確認します。

- (1) Windows の画面上にあるタスクバーから[スタート]-[(すべての)プログラム]
[アクセサリ]-[メモ帳]を開きます
- (2) スキャナでバーコードを読み取ります。[メモ帳]にバーコードデータが出力・表示されます。

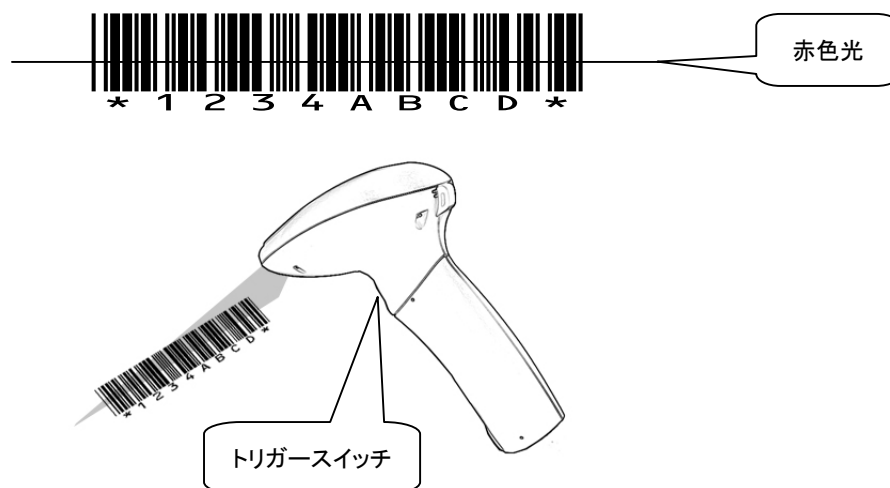
[バーコードの読み取り方(スキャナの操作)]

- (1) スキャナのトリガースイッチ(黄色部)を押します。
- (2) 赤色光をバーコードに投光します。
バーコードの左右から赤色光がはみでるように投光します(例図を参照)。
- (3) バーコードを読み取ると、読み取り確認ブザーが鳴り、データがコンピュータに出力されます。

[例図 1]

バーコード規格: Code39

* (アスタリスク)は Code39 のスタート・ストップキャラクタです。初期状態の設定では出力しません。



手順 5. 各種設定を行う

ご使用のアプリケーションソフトの仕様に合わせ、スキャナの出力、バーコード読み取り条件の設定を行います。

設定の概要

スキャナで「設定用バーコード」をスキャンすると、スキャナの機能が変更されます。設定はスキャナの不揮発性メモリに保存され、電源を切った後も保存されています。設定用バーコードは本書[設定用バーコードメニュー]の項目に記載されています。必要な項目を印刷してご使用下さい。

設定の手順

設定用バーコードをスキャンする順番は、下記[表:設定の手順]に示す通りです。

[表:設定の手順]

手順	内容
1	[設定開始]の設定用バーコードをスキャンする。
2	各設定項目をスキャンする。 項目によっては、付録の「16進数/10進数 設定用バーコード」から数値を選択し、値を設定します。
3	[設定終了]の設定用バーコードをスキャンする。

設定の例

(1) バーコードデータを出力した後に、TAB を出力する。

順番	スキャンする設定用バーコード
1	[設定開始]
2	項目[レコード・サフィックス(終端キー)]-[TAB]
3	[設定終了]

(2) Code39 の「最短の読取桁数」を 2 桁に設定する。

順番	スキャンする設定用バーコード
1	[設定開始]
2	項目[Code39]-[最短の読取桁数]
3	付録 2[16進数/10進数値 設定用バーコード]-[0]
4	付録 2[16進数/10進数値 設定用バーコード]-[2]
5	項目[Code39]-[値を決定“FIN”]
6	[設定終了]

手順 6. 操作を開始する

手順1～5が完了した後は、実際にバーコードデータを入力するアプリケーションソフトを起動し、運用を開始します。


第 2 章 設定用バーコード

1. [接続環境の設定]

◆記号は初期値です。

順番	内容	設定用バーコード	
1	インターフェースの設定 USB キーボードインターフェース “USB Keyboard Interface Quick Set Command” [対象製品] FBC-6870-USB(USB インターフェース)	I/F	製品に合わせてどちらかを選択します 
	PS/2 キーボードインターフェース ◆ “PC/AT, Keyboard Wedge Quick Set Command” [対象製品] FBC-6870-KB(キーボードインターフェース)	KB	
2	設定開始“PROGRAM”		
3	キーボードレイアウト“Keyboard Layout”		
4	値設定 日本語キーボード(値:16)に設定します。 初期値:00 ◆ (USA キーボード)	値	1,6 の順で読み取ります
		1	
		6	
5	設定終了“END”		

2. [初期化]

内容	設定用バーコード
すべての設定の値を工場出荷時の状態に設定し、初期化します。 初期値はマニュアルの◆記号の値です。 設定がわからなくなってしまった場合やスキャナがうまく動作しなくなった場合は、初期化を実行し、再び「接続環境の設定」を実行してください。 [備考] インターフェースやキーボードレイアウトも初期値に設定されます。	

3. [動作の設定]

アルファベット大文字/小文字 出力の設定 “Upper/Lower Case”

◆記号は初期値です。

順番	内容	設定用バーコード	
1	設定開始“PROGRAM”		
2	アルファベット大文字/小文字 出力 “Upper/Lower Case”		
3	項目を1つ選択	値	選択します
	設定無し ◆	0	
	反転して出力	1	
	全て大文字で出力	2	
	全て小文字で出力	3	
4	設定終了“END”		

「大文字/小文字」は、コンピュータのキーボードが小文字入力の状態を基準として表示しています。

オペレーションモード(スイッチと赤色 LED の設定) “Operation Mode”

◆記号は初期値です。

順番	内容	設定用バーコード	
1	設定開始“PROGRAM”		
2	オペレーションモード“Operation Mode”		
3	項目を1つ選択	値	選択します
	トリガーモード ◆	1	
	トリガーを押している間、赤色 LED は点灯。 バーコードをスキャンすると赤色 LED は消灯。		
	レベルモード(オートパワーオフ 1)	2	
	トリガーを押し、7-8 秒後に赤色 LED は消灯。 バーコードをスキャンすると赤色 LED は消灯。		
	オルタナティブモード(オートパワーオフ 2)	3	
	トリガーを押し、7-8 秒後に赤色 LED は消灯。 バーコードをスキャンした後も赤色 LED は点灯。		
フラッシュモード	4		
赤色 LED は点滅。トリガーを押さなくとも、 赤色光をバーコードに投光するとスキャン。			
フォースマード	5		
常時、赤色 LED は灯光。			
トグルモード	6		
トリガーを押すごとに、赤色 LED の点灯と消灯を切り替え。			
4	設定終了“END”		

ブザーの設定 “Buzzer Tone Adjust”

◆記号は初期値です。

順番	内容	設定用バーコード	
1	設定開始“PROGRAM”		
2	読み取り確認ブザーの設定		
3	読み取り確認ブザー	値	選択します
	鳴らさない	0	
	鳴らす 音の種類 1	1	
	鳴らす 音の種類 2 ◆	2	
	鳴らす 音の種類 3	3	
	鳴らす 音の種類 4	4	
	ブザーのタイミング	値	選択します
	読み取りデータを出力する前に鳴らす ◆	5	
	読み取りデータを出力した後に鳴らす	6	
	起動時のブザー	値	選択します
鳴らす ◆	7		
鳴らさない	8		
4	設定終了“END”		

2度読み防止 “ Double Scan Verification”

記号は初期値です。

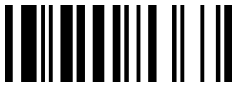
順番	内容	設定用バーコード	
1	設定開始 “ PROGRAM”		
2	2度読み防止		
3	2度読み防止	値	選択します
	2度読み防止を無効	0	
	すぐにスキャンする	1	
	2-3秒後にスキャンする	2	
	4-6秒後にスキャンする	3	
	7-8秒後にスキャンする	4	
	スキャンしない 他のバーコードをスキャンするか、赤色LEDが一度消灯するまでは同一バーコードをスキャンしません。	5	
4	設定終了 “ END”		

同一バーコードを読み取るまでの時間の間隔の設定です。

オペレーションモードの設定で、オルタナティブ、トグル、フォースモードを設定した場合に、連続して同一のバーコードをすぐに読み取らないように設定したいときは、時間の間隔を長く設定します。

一致回数 “Redundancy”

◆記号は初期値です。

順番	内容	設定用バーコード	
1	設定開始“PROGRAM”		
2	一致回数		
3	読み取り確認ブザー	値	選択します
	1回	1	
	2回 ◆	2	
	3回	3	
	4回	4	
	5回	5	
4	設定終了“END”		

スキャナ内部の処理回数です。

回数を多くすると出力データの信頼性は向上しますが、品質の低いバーコードの読み取り率は低下します。

FBC-6870 はバーコードを 1 秒間に 300 回走査しています。トリガーを 1 回押したつもりでも、スキャナは何度も読み取り走査を実行しています。

そのうち、設定した回数分の一致したデータがあるとデータを出力します。

4. [出力データの編集]

FBC-870 シリーズはスキャンしたバーコードデータの前後に様々な付加データを出力することができます。これらの付加データは設定によって変更できます。
初期状態では、「レコードサフィックス(終端キー)」の「ENTER」のみが出力されるように設定されています。

データを出力する順番

プリアンブル(前置文字)、ポストアンブル(後置文字)、シンボル ID、データ長、レコードサフィックスの出力順を下記の「データ出力順の表」に示します。

データ出力順の表

(左側が先頭)

設定項目	出力データ						
	プリアンブル (前置文字)	データ長	シンボル ID	バーコード データ	シンボル ID	ポストアンブル (後置文字)	レコード サフィックス (終端キー)
桁数	0-15	2-3	1(2)*	-	1(2)*	0-15	1

*コード識別子

出力する位置はバーコードデータの前か後、または両方です。

UPC-E と EAN-8 のコード識別子については、設定できる桁数は 2 桁です





プリアンブル(前置文字)を設定する “Preamble”

◆記号は初期値です。

順番	内容	設定用バーコード	
1	設定開始“PROGRAM”		
2	プリアンブル設定		
3	<p>値設定</p> <p>初期値:無し(Null) ◆ (0x00)</p> <p>値設定範囲:00-7F / 16進数値(Ascii)</p> <p>付録1[アスキーコード表]を参照し、 付録2[16進数値 設定用バーコード]から 2桁の値(00-7F)を設定します。</p> <p>15桁分のキャラクターを設定できます。</p> <p>“00-1F”は特定のキーに変換して出力しま す。変換内容については 付録1[アスキーコード表]を参照してくださ い。</p>	<p>値</p> <p>00 7F</p>	<p>付録2[16進数値 設定用バーコード]を使用</p> <p>[例1] “A”を設定する場合は“4,1”の順番で読み取りま す。</p> <p>[例2] “ABC”を設定する場合は“4,1,4,2,4,3”の順番で値 設定バーコードをスキャンします。</p>
4	値を決定する“FIN”		
5	設定終了“END”		

プリアンブル(前置文字)を消去する

◆記号は初期値です。

順番	内容	設定用バーコード	
1	設定開始“PROGRAM”		
2	プリアンブル設定		
3	<p>値を決定する“FIN”</p> <p>値を設定しないままで“FIN”をスキャンするこ とでプリアンブルは消去されます。</p>		
4	設定終了“END”		





ポストアンブル(後置文字)を設定する “Postamble”

◆記号は初期値です。

順番	内容	設定用バーコード	
1	設定開始“PROGRAM”		
2	ポストアンブル設定		
3	<p>値設定</p> <p>初期値:無し(Null) ◆ (0x00)</p> <p>値設定範囲:00-7F / 16進数値(Ascii)</p> <p>付録1[アスキーコード表]を参照し、 付録2[16進数値 設定用バーコード]から 2桁の値(00-7F)を設定します。</p> <p>15桁分のキャラクターを設定できます。</p> <p>“00-1F”は特定のキーに変換して出力しま す。変換内容については 付録1[アスキーコード表]を参照してくださ い。</p>	値	付録2[16進数値 設定用バーコード]を使用
		00 7F	<p>[例1]</p> <p>“A”を設定する場合は“4,1”の順番で読み取りま す。</p> <p>[例2]</p> <p>“ABC”を設定する場合は“4,1,4,2,4,3”の順番で値 設定バーコードをスキャンします。</p>
4	値を決定する“FIN”		
5	設定終了“END”		





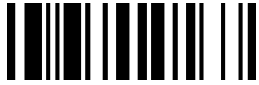
ポストアンブル(後置文字)を消去する

◆記号は初期値です。

順番	内容	設定用バーコード	
1	設定開始“PROGRAM”		
2	ポストアンブル設定		
3	<p>値を決定する“FIN”</p> <p>値を設定しないままで“FIN”をスキャンするこ とでポストアンブルは消去されます。</p>		
4	設定終了“END”		

データ長出力 “Data Length Transmission”

◆記号は初期値です。

順番	内容	設定用バーコード	
1	設定開始“PROGRAM”		
2	データ長出力		
3	項目を1つ選択 出力しない ◆	値	選択します
		0	
	出力する	1	
4	設定終了“END”		

スキャンしたバーコードの桁数を 2 桁の数字で出力します。100 桁以上の場合は 3 桁の数字です。

シンボル ID(コード ID) 出力 “ Symbology ID Transmission”

記号は初期値です。

順番	内容	設定用バーコード	
1	設定開始 “ PROGRAM”		
2	シンボル ID(コード ID) 出力		
3	項目を 1 つ選択	値	選択します
	出力しない	0	
	データの前に出力する	1	
	データの後に出力する	2	
	データの前と後の両方に出力する	3	
3	設定終了 “ END”		

シンボル ID (バーコード識別子) “Symbol ID” の設定 (1)

◆記号は初期値です。

順番	内容	設定用バーコード	
1	設定開始“PROGRAM”		
2	シンボル ID (コード ID) “Symbol ID:1 character”		
3	バーコードの種類と値を設定	値	値を選択
<p>Code128</p> <p>初期値: B ◆ (0x42) 値設定範囲: 00-7F / 16 進数値(Ascii)</p> <p>値「00」で Code128 を指定。 次に[付録 1][アスキーコード表]を参照し、 付録 2[16 進数値 設定用バーコード]から 2 桁の値 (00-7F) を設定します。</p> <p>1 桁分を設定します。</p>	0		
	0		
	00	[付録 2][16 進数値 設定用バーコード]を使用 [例] “K” を設定する場合 “4,B”	
	7F		
<p>UPC-A</p> <p>初期値: A ◆ (0x41) 値設定範囲: 00-7F / 16 進数値(Ascii)</p> <p>値「02」で UPC-A を指定。 次に[付録 1][アスキーコード表]を参照し、 付録 2[16 進数値 設定用バーコード]から 2 桁の値 (00-7F) を設定します。</p> <p>1 桁分を設定します。</p>	0		
	2		
	00	[付録 2][16 進数値 設定用バーコード]を使用 [例] “@” を設定する場合 “4,0”	
	7F		
<p>EAN-13, JAN-13</p> <p>初期値: F ◆ (0x46) 値設定範囲: 00-7F / 16 進数値(Ascii)</p> <p>値「03」で EAN-13, JAN-13 を指定。 次に[付録 1][アスキーコード表]を参照し、 付録 2[16 進数値 設定用バーコード]から 2 桁の値 (00-7F) を設定します。</p> <p>1 桁分を設定します。</p>	0		
	3		
	00	[付録 2][16 進数値 設定用バーコード]を使用 [例] “!” を設定する場合 “2,1”	
	7F		
4	設定終了“END”		

シンボル ID (バーコード識別子) “Symbol ID” の設定 (2)

◆記号は初期値です。

順番	内容	設定用バーコード	
1	設定開始“PROGRAM”		
2	シンボル ID (コード ID) “Symbol ID:1 character”		
3	バーコードの種類と値を設定	値	値を選択
<p>Codabar, NW-7</p> <p>初期値: D ◆ (0x44) 値設定範囲: 00-7F / 16 進数値(Ascii)</p> <p>値「04」で Codabar, NW-7 を指定。 次に付録 1 [アスキーコード表] を参照し、 付録 2 [16 進数値 設定用バーコード] から 2 桁の値 (00-7F) を設定します。</p> <p>1 桁分を設定します。</p>	0		
	4		
	00 7F	付録 2 [16 進数値 設定用バーコード] を使用 [例] “N” を設定する場合 “4,E”	
	<p>Code39</p> <p>初期値: G ◆ (0x47) 値設定範囲: 00-7F / 16 進数値(Ascii)</p> <p>値「05」で Code39 を指定。 次に付録 1 [アスキーコード表] を参照し、 付録 2 [16 進数値 設定用バーコード] から 2 桁の値 (00-7F) を設定します。</p> <p>1 桁分を設定します。</p>	0	
5			
00 7F		付録 2 [16 進数値 設定用バーコード] を使用 [例] “M” を設定する場合 “4,D”	
<p>Interleaved 2 of 5</p> <p>初期値: J ◆ (0x4A) 値設定範囲: 00-7F / 16 進数値(Ascii)</p> <p>値「08」で Interleaved 2 of 5 を指定。 次に付録 1 [アスキーコード表] を参照し、 付録 2 [16 進数値 設定用バーコード] から 2 桁の値 (00-7F) を設定します。</p> <p>1 桁分を設定します。</p>		0	
	8		
	00 7F	付録 2 [16 進数値 設定用バーコード] を使用 [例] “I” を設定する場合 “4,9”	
	4	設定終了“END”	

シンボル ID (バーコード識別子) “Symbol ID” の設定 (3)

◆記号は初期値です。

順番	内容	設定用バーコード	
1	設定開始“PROGRAM”		
2	シンボル ID (コード ID) 2 桁の設定が必要なバーコード規格 “Symbol ID:2 character” シンボル ID は初期状態で特定の文字が設定されています。任意の文字やキーに変更する場合に設定します。		
3	バーコードの種類と値を設定	値	値を選択
3	UPC-E 初期値: E0 ◆ (0x46,0x30) 値設定範囲: 00-7F / 16 進数値(Ascii) 値「00」で UPC-A を指定。 次に付録 1 [アスキーコード表] を参照し、 付録 2 [16 進数値 設定用バーコード] から 2 桁の値 (00-7F) を設定します。 2 桁分のキャラクターを設定します。	0	
		0	
		00 7F	付録 2 [16 進数値 設定用バーコード] を使用 [例] “UE” を設定する場合 “5,5,4,5”
3	EAN-8, JAN-8 初期値: FF ◆ (0x46,0x46) 値設定範囲: 00-7F / 16 進数値(Ascii) 値「01」で EAN-8, JAN-8 を指定。 次に付録 1 [アスキーコード表] を参照し、 付録 2 [16 進数値 設定用バーコード] から 2 桁の値 (00-7F) を設定します。 2 桁分を設定します 2	0	
		1	
		00 7F	付録 2 [16 進数値 設定用バーコード] を使用 [例] “FA” を設定する場合 “4,6,4,1”
4	値を決定“FIN”		
5	設定終了“END”		

レコードサフィックス(終端キー)の設定“Record Suffix”

◆記号は初期値です。

順番	内容	設定用バーコード	
1	設定開始“PROGRAM”		
2	レコードサフィックス“Record Suffix” データの終端に出力するキーの設定です。		
3	項目を1つ選択	値	選択します
	無し	0	
	ENTER ◆	1	
	TAB	2	
	SPACE	3	
	テンキーパッド側 ENTER	4	
	任意のキー 値“5”をスキャンした後に、16進数値を設定します 値設定範囲:00-7F / 16進数値(Ascii) 付録1[アスキーコード表]を参照し、 付録2[16進数値 設定用バーコード]から 2桁の値(00-7F)を設定します。 1桁分のキャラクターを設定できます。 “00-1F”は特定のキーに変換して出力します。変換内容については 付録1[アスキーコード表]を参照してください。	5	 ⇒次に16進数値を設定します。
	00 7F	付録2[16進数値 設定用バーコード]を使用 [例] “ESC”を設定する場合は“0,6”の順番で読み取ります。	
4	設定終了“END”		

5. [バーコードの読み取り条件]

読み取りバーコードの選択

◆記号は初期値です。

順番	内容	設定用バーコード	
1	設定開始“PROGRAM”		
2	読み取りバーコード規格の選択		
3	バーコードの種類と値を設定	値 付録 2[10 進数値 設定用バーコード]を使用 2 桁の値を[10 進数値 設定用バーコード] から選択して読み取ります。 バーコード規格を1つ選択すると、選択した バーコード 1 種類のみを読み取るように設 定されます。 [例] Code39 を設定するときは“0,8”の順番で読 み取ります。	
	全てのバーコード規格を読み取る ◆		00
	Code128		01
	UPC-A		02
	UPC-E		03
	EAN-13, JAN-13		04
	EAN-8, JAN-8		05
	Cordabar, NW-7		06
	Code39		07
Intereleaved 2of 5(XXX2of5 は全て)	08		
4	値を決定“FIN”		
5	設定終了“END”		

[例]

EAN-13, JAN-13 と Code39 の 2 種類のバーコード規格を読み取る場合

設定開始 ⇒ 読み取りバーコード規格の選択 ⇒ アスキーコード表“0,4,0,7”(4 つ) ⇒ 値を設定“FIN”
 ⇒ 設定終了“END”

バーコード規格ごとの読み取り条件設定

Code39 (1)

◆記号は初期値です。

順番	内容	設定用バーコード	
1	設定開始“PROGRAM”		
2	Code39 読み取り条件 “Code39 Family Setting”		
3	出力フォーマット	値	選択します
	Code39 ◆	1	
	-----	-----	-----
	Full Ascii Code39	2	
	スタート・ストップ(*)の出力	値	選択します
	出力しない ◆	3	
	-----	-----	-----
	出力する	4	
	チェックデジットの検査	値	選択します
	検査しない ◆	7	
-----	-----	-----	
検査する	8		
チェックデジットの算出方法はモジュラス 43			
チェックデジットの出力	値	選択します	
出力しない	9		
-----	-----	-----	
出力する ◆	A		
4	設定終了“END”		

Code39 (2)

記号は初期値です。

順番	項目	設定用バーコード
1	設定開始 “ PROGRAM”	
2	Code39 最短の読取桁数	
3	値を設定 (10進数値)	値 付録 2 [10進数値 設定用バーコード] を 使用
	初期値 : 04 値設定範囲 : 01-98 / 10進数値 内容 : 桁数を指定します 初期状態では、4桁以上のバーコードを 読み取ります。	01 2桁の値を [10進数値 設定用バーコー ド] から選択して読み取ります。 98 [例] 3桁を設定する場合は “ 0,3” の順番で読 み取ります。
4	設定終了 “ END”	

記号は初期値です。

順番	項目	設定用バーコード
1	設定開始 “ PROGRAM”	
2	Code39 最長の読取桁数	
3	値を設定	値 付録 2 [10進数値 設定用バーコード] を 使用
	初期値 : 98 値設定範囲 : 01-98 / 10進数値 内容 : 桁数を指定します 初期状態では、98桁以下のバーコードを 読み取ります。	01 2桁の値を [10進数値 設定用バーコー ド] から選択して読み取ります。 98 [例] 20桁を設定する場合は “ 2,0” の順番で 読み取ります。
4	設定終了 “ END”	

Codabar,NW-7 (1)

◆記号は初期値です。

順番	内容	設定用バーコード	
1	設定開始“PROGRAM”		
2	Codabar,NW-7 読み取り条件 “Codabar,NW-7 Family Setting”		
3	スタート・ストップの出力フォーマット	値	選択します
	スタート・ストップを出力しない ◆	4	
	ABCD/ABCD を出力する スタート・ストップは A,B,C,D のいずれか。	5	
	abcd/abcd を出力する	6	
	ABCD/TN*E を出力する	7	
	abcd/tn*e を出力する	8	
	チェックデジットの検査	値	選択します
	検査しない ◆	9	
	検査する チェックデジットの算出方法はモジュラス 16	A	
	チェックデジットの出力	値	選択します
出力しない	B		
出力する ◆	C		
4	設定終了“END”		

Codabar ,NW-7 (2)

記号は初期値です。

順番	項目	設定用バーコード	
1	設定開始 “ PROGRAM”		
2	Codabar ,NW-7 最短の読取桁数		
3	値を設定 (10進数値)	値	付録 2 [10 進数値 設定用バーコード] を使用
	初期値 : 04 値設定範囲 : 01-98 / 10進数値 内容 : 桁数を指定します 初期状態では、4桁以上のバーコードを読み取ります。	01 98	2 桁の値を [10 進数値 設定用バーコード] から選択して読み取ります。 [例] 3桁を設定する場合は “ 0,3” の順番で読み取ります。
4	設定終了 “ END”		

記号は初期値です。

順番	項目	設定用バーコード	
1	設定開始 “ PROGRAM”		
2	Codabar ,NW-7 最長の読取桁数		
3	値を設定 (10進数値)	値	付録 2 [10 進数値 設定用バーコード] を使用
	初期値 : 98 値設定範囲 : 01-98 / 10進数値 内容 : 桁数を指定します 初期状態では、98桁以下のバーコードを読み取ります。	01 98	2 桁の値を [10 進数値 設定用バーコード] から選択して読み取ります。 [例] 20 桁を設定する場合は “ 2,0” の順番で読み取ります。
4	設定終了 “ END”		

UPC-A ,UPC-E(1)

◆記号は初期値です。

順番	内容	設定用バーコード	
1	設定開始“PROGRAM”		
2	UPC-A,UPC-E 読み取り条件 “UPC Family Setting”		
3	アドオン	値	選択します
	アドオンコード無しで読み取る ◆	0	
	2桁のアドオンコードを読み取る	1	
	5桁のアドオンコードを読み取る	2	
	2桁および5桁のアドオンコードを読み取る	3	
	UPC-E 拡張		選択します
	UPC-E を拡張しない ◆	4	
	UPC-E を UPC-A に拡張する	5	
	“0”を挿入し 12桁で出力します。		
	UPC-A の桁数調整		選択します
	UPC-A の桁数を調整しない ◆	6	
	12桁のまま出力します		
	UPC-A の桁数を調整する	7	
	先頭に“0”を付加し 13桁で出力します		
UPC のナンバーシステムキャラクタ		選択します	
出力しない	8		
先頭の1桁を出力しません			
出力する ◆	9		
先頭の1桁を出力しません			
4	設定終了“END”		

UPC-A ,UPC-E(2)

◆記号は初期値です。

順番	内容	設定用バーコード	
1	設定開始“PROGRAM”		
2	UPC-A,UPC-E 読み取り条件 “UPC Family Setting”		
3	UPC-A のチェックデジット	値	選択します
	出力しない	A	
	出力する ◆	B	
	UPC-E のチェックデジット		選択します
	出力しない	C	
	出力する ◆	D	
4	設定終了“END”		

EAN,JAN

◆記号は初期値です。

順番	内容	設定用バーコード	
1	設定開始“PROGRAM”		
2	EAN,JAN 読み取り条件 “EAN/JAN Family Setting”		
3	アドオン	値	選択します
	アドオンコード無しで読み取る ◆	0	
	2桁のアドオンコードを読み取る	1	
	5桁のアドオンコードを読み取る	2	
	2桁および5桁のアドオンコードを読み取る	3	
	EAN-8,EAN-8 拡張		選択します
	EAN-8,JAN-8 を拡張しない ◆	4	
	EAN-8,JAN-8 を拡張する	5	
	“0”を挿入し 13桁で出力します。		
	EAN-13,JAN-13 のチェックデジット		選択します
	出力しない	6	
	出力する ◆	7	
	EAN-8,JAN-8 のチェックデジット		選択します
	出力しない	8	
出力する ◆	9		
ISBN/ISSN 変換		選択します	
変換しない ◆	A		
変換する	B		
978 で始まる JAN を ISBN(10桁)に変換			
4	設定終了“END”		

◆記号は初期値です。

順番	内容	設定用バーコード	
1	設定開始“PROGRAM”		
2	チェックデジットの検査	値	選択します
	検査しない ◆	7	
	検査する	8	
	算出方式はモジュラス 10 ウェイト 3		
	チェックデジットの出力		選択します
	出力しない	9	
出力する ◆	A		
3	設定終了“END”		

Interleaved 2 of 5 (2)

記号は初期値です。

順番	項目	設定用バーコード	
1	設定開始 “ PROGRAM”		
2	Interleaved 2 of 5 最短の読取桁数		
3	値を設定 (10進数値)	値	付録 2 [10 進数値 設定用バーコード] を使用
	初期値 : 06 値設定範囲 : 02-98 / 10進数値 内容 : 桁数を指定します。 初期状態では、6桁以上のバーコードを読み取ります。	02 98	2 桁の値を [10 進数値 設定用バーコード] から選択して読み取ります。 [例] 4桁を設定する場合は “ 0,4” の順番で読み取ります。
4	設定終了 “ END”		

記号は初期値です。

順番	項目	設定用バーコード	
1	設定開始 “ PROGRAM”		
2	Interleaved 2 of 5 最長の読取桁数		
3	値を設定	値	付録 2 [10 進数値 設定用バーコード] を使用
	初期値 : 98 値設定範囲 : 02-98 / 10進数値 内容 : 桁数を指定します。 初期状態では、98桁以下のバーコードを読み取ります。	02 98	2 桁の値を [10 進数値 設定用バーコード] から選択して読み取ります。 [例] 20桁を設定する場合は “ 2,0” の順番で読み取ります。
4	設定終了 “ END”		

Code128

記号は初期値です。

順番	項目	設定用バーコード	
1	設定開始 “ PROGRAM”		
2	Code128 最短の読取桁数		
3	値を設定	値	付録 2 [10進数値 設定用バーコード] を使用
	初期値： 04 値設定範囲： 01-98 / 10進数値 内容： 桁数を指定します。 初期状態では、4桁以上のバーコードを読み取ります。	02 98	2桁の値を [10進数値 設定用バーコード] から選択して読み取ります。 [例] 4桁を設定する場合は “ 0,4” の順番で読み取ります。
4	設定終了 “ END”		

記号は初期値です。

順番	項目	設定用バーコード	
1	設定開始 “ PROGRAM”		
2	Code128 最長の読取桁数 コードセット A,コードセット Bのみ設定可能		
3	値を設定	値	付録 2 [10進数値 設定用バーコード] を使用
	初期値： 98 値設定範囲： 01-98 / 10進数値 内容： 桁数 + 桁で桁を指定します。 初期状態では、98桁以下のバーコードを読み取ります。	02 98	2桁の値を [10進数値 設定用バーコード] から選択して読み取ります。 [例] 20桁を設定する場合は “ 2,1” の順番で読み取ります。
4	設定終了 “ END”		

付録 1

アスキーコード表 “Ascii Code Table”

L \ H	0		1		0	1	2	3	4	5	6	7
	0	1	0	1	0	1	2	3	4	5	6	7
0	なし	F7	NUL	DLE	SP	0	@	P	`	p		
1	CTRL(Left)	F8	SOH	DC1	!	1	A	Q	a	q		
2	ALT(Left)	F9	STX	DC2	“	2	B	R	b	r		
3	SHIFT	F10	ETX	DC3	#	3	C	S	c	s		
4	CAPS LOCK	CTRL(Right)	EOT	DC4	\$	4	D	T	d	t		
5	NUM LOCK	ALT(Right)	ENQ	NAK	%	5	E	U	e	u		
6	ESC	なし	ACK	SYN	&	6	F	V	f	v		
7	F1	なし	BEL	ETB	‘	7	G	W	g	w		
8	+(テンキー)	なし	BS	CAN	(8	H	X	h	x		
9	TAB	なし	HT	EM)	9	I	Y	i	y		
A	F2	なし	LF	SUB	*	:	J	Z	j	z		
B	F3	なし	VT	ESC	+	;	K	[k	{		
C	F4	なし	FF	FS	,	<	L	¥	l			
D	ENTER	なし	CR	GS	-	=	M]	m	}		
E	F5	なし	SO	RS	.	>	N	^	n	~		
F	F6	なし	SI	US	/	?	O	_	o	DEL		

ファンクションキー変換

アスキーコード表について

[見方]

- ・H=High 16 進数上位
- ・L=Low 16 進数下位

[文字について]

- ・“0x5C”は ISO 規格では“バックスラッシュ”ですが日本語環境では ANK に基づく “¥”(円記号)になります。
- ・“0x7E”は ISO 規格では“オーバーライン”ですが日本語 Windows 環境では “~”(チルダ)が表示されます。
- ・FBC-6870-USB は未対応の特殊文字があります。

[表 1-特殊文字対応状況]

型式	FBC-6870-USB (USB 接続)	FBC-6870-KB (PS/2 接続)
対応状況	一部の特殊文字に未対応	全ての特殊文字に対応済み

[表 2-未対応に該当する特殊文字]

“0x5F”の _ (アンダースコア)、“0x7C”の (縦棒)、“0x7E”の ~ (チルダ)
--

[網掛け部分について]
















- ・「ファンクションキー変換」の設定が「変換する」に設定されているときに適用される内容です。初期状態では「変換する」に設定されています。(英文項目“Function Key Emulation”)英文説明書に表記された 0x16-01F は出力できません。

付録 2

16 進 / 10 進数値 設定用バーコード

値設定に使用する設定用バーコード

16 進 / 10 進数値 値設定の設定項目で、アスキー値および 10 進数の値を設定します。

0		8	
1		9	
2		A	
3		B	
4		C	
5		D	
6		E	
7		F	